

日韓外国語の定着形態に関する比較研究

李 恩 兆*

1. 研究の背景と目的

本稿は、日韓の両言語において外国語の受容とその結果に関する研究の中、外国語の定着形態について検討したものである。日韓の言語には、外国語の音を表記し自国語のように使われる語彙があり、その語彙を外来語と言う。日韓の語彙をその由来から分類すると、「和語/固有語」、「漢語/漢字語」、「外来語」に分けられるが¹、「外来語」は他の語に比べ、自国語として認識されていないように思われる傾向がある。これを反映するように、日韓の両国の国語関連機関では、その「外来語」に対応する「言い換え語」を提案している。しかし、「外来語」と「言い換え語」のうち、どの語が実際に使われているのかについての研究はほとんど行われていない。したがって、本稿では「外来語」とその「言い換え語」の中で、現在、どの語がより多く使われているのかについて調査し、その過程に現れる日韓の特徴を分析した。

2. 調査資料

研究対象としたのは次の2つの資料である。日本語の資料として利用したのは、2006年に日本の国立国語研究所で発刊された第4回『「外来語」言い換え提案』に収録されている35語である。韓国語の資料としては、同じく2006年に韓国の国立国語院で発刊された『外来語及び外国語の認知

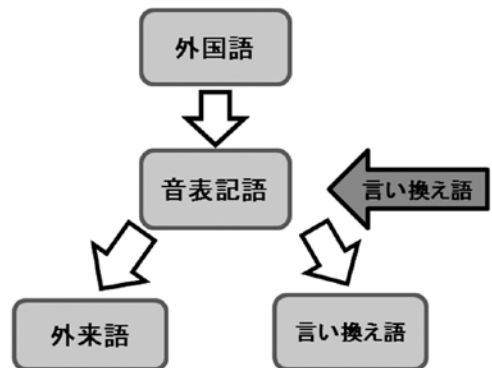
度調査報告書』に収録されている20語である。この資料を選んだ理由は、両資料の調査時期が共通的に2006年であること、調査の対象になった語が公共機関や新聞などによく使われている語であること、そしておよそ10年前に行った調査であるため、現在、資料に収録されている語の10年間の変化を見ることができると思ったからである。

3. 調査方法

3.1. 言葉の流れと用語の定義

本稿では外国語の定着過程を〈図1〉のように捉えている。

この図を説明するために、まず、本稿で使う言葉を定義する。「外国語」は欧米の言語から入った語を、「音表記語」は、「外国語」の音を表記した語を言う。そして「言い換え語」は「音表記語」に対応する和語や漢語を言い、「音表記語」が定



〈図1〉 言葉の流れ

*高麗大学校院生

着した語を「外来語」と言う。すなわち、外国語が入ってからの言葉の流れの仮説は、外国語の音表記が外来語に定着するか、言い換え語に定着するかの二つである。

3.2. 定着の判断基準

3.2.1. 辞書の収録有無の確認

一つ目の定着基準としたのは、調査対象語が辞書に収録されているか否かである。これを定着の基準にした理由は、辞書に収録されている語は国語として認められると判断したからである。

本稿で対象語にした語は2006年に調べた語であるが、辞書収録の有無を時期別に比較するため、2006年以後に発刊された辞書の中で2006年にもっとも近い時期に発刊された辞書と2017年の辞書を利用した。日本の場合は、2008年の『広辞苑』と2017年の『コトバンク²』を利用した³。韓国の場合は、2009年の『訓民正音国語辞典』と2017年の『標準国語大辞典⁴』を利用した⁵。そして対象語である「外来語」とそれに対応する「言い換え語」の中で、どの語が辞書に収録されているのかを確認し、辞書に収録されている語を定着語として分類した。

3.2.2. 新聞の出現頻度の比較

二つ目の定着基準としたのは、新聞に現れる語の出現頻度である。これを定着の基準にした理由は、新聞によく現れる語が実際に多く使われている語であると考えられるし、比較する二つの語のうち、一方の語が他の語より多く使われている場合、その語に定着される可能性が高いと思ったからである。したがって「外来語」とそれに対応する「言い換え語」のうち、どの語が実際に多く使われているのかを新聞の出現頻度によって検討し、頻度が高い語を定着語に分類した。

4. 調査結果

4.1. 辞書の収録有無の結果

辞書の収録有無を確認した結果、日本語の場合、〈表1〉のように2008年には34語の中で、音表記語は26語、言い換え語は11語が収録され、2017年には音表記語が32語、言い換え語は17語が辞書に収録されている⁶。一方、韓国語の場合、〈表2〉のように2009年には、17語の中で音表記語と言い換え語が同じく7語が収録されている。そして2017年には音表記語は5語、言い換え語は9語が辞書に収録されている⁷。

日本の音表記語の変化を見ると、2017年の32語の中で2008年の26語が全て含まれている⁸。また、言い換え語も2017年の17語の中で2008年の11語が全て含まれていることから、時代により国語に含まれる比率が増加すると考えられる。

一方、韓国の場合、音表記語は7語から5語に減り、言い換え語は7語から9語に増加した。音表記語から見ると、2009年と2017年に共通的に辞書に収録されている語は、「インプラ(infra)」、「プル(～pool)」、「コンソーシアム(consortium)」、「プロシュオ(brochure)」であり、2009年は辞書に収録されていたが、2017年には辞書からなくなった語は、「ロードマップ(roadmap)」、「シイオ(CEO)」、「ポピュリズム(populism)」である。ま

辞書収録の語数			
2008 (広辞苑)		2017 (コトバンク)	
音表記語	言い換え語	音表記語	言い換え語
26語	11語	32語	17語

〈表1〉日本の調査対象語の辞書の収録有無

辞書収録の語数			
2009 (訓民正音国語辞書)		2017 (標準国語大辞典)	
音表記語	言い換え語	音表記語	言い換え語
7語	7語	5語	9語

〈表2〉韓国の調査対象語の辞書の収録有無

た、2017年は、「クラスター (cluster)」が新たに辞書に登場している。しかし、言い換え語の場合は、日本の変化と同じように、2017年に辞書の収録している語の中で2009年の辞書の収録語が全て含まれている。

このような結果から、2017年を基準として、日本の場合、音表記語は32語、言い換え語は17語が定着語になる可能性がある。一方、韓国の場合、音表記語は5語、言い換え語は9語が定着語になる可能性がある。

4.2. 新聞の出現頻度の比較

4.2.1. 日本の語彙の分析

2017年の辞書に収録されている音表記語のうち、言い換え語も同じく辞書に収録されている語は17語である。ここに属する語の出現頻度は〈表3〉のようである。

〈表3〉の語は全て辞書に収録されているので出現頻度より定着語が決定される。出現頻度を比較すると、音表記語の頻度が高い語が9語であり、言い換え語の頻度が高い語が6語である。頻度の差がない「クライアント」と「デポジット」は分析対象から除外した。したがって、音表記語と言い換え語が全て辞書に収録されている17語のうち、外来語として定着した語は9語、言い換え語として定着した語は6語である。そして2語は、まだ、どちらにも定着してない語と考えられる。

一方、音表記語は辞書に収録されているが、言い換え語が辞書に収録されていない語は15語である。ここに属する語の出現頻度は〈表4〉のようである。

〈表4〉の語は音表記語のみ辞書に収録されているので、外来語として定着されたと考えられる。しかし、出現が見られない語と頻度の差があまりない語、音表記語より言い換え語の頻度が高い語

原語	音表記語	言い換え語	2016朝日新聞の出現頻度	
			音表記語	言い換え語
amusement	アミューズメント	娯楽	33	534
ownership	オーナーシップ	①所有権 ②主体性	0	①153 ②86
off site center	オフサイトセンター	原子力防災センター	32	9
operation	オペレーション	公開市場操作	43	1
client	クライアント	顧客	1534	1534
compost	コンポスト	①たい肥 ②生ゴミたい肥化装置	16	①165 ②0
supplement	サプリメント	栄養補助食品	96	24
census	センサス	①全数調査 ②大規模調査	115	0 33
soft landing	ソフトランディング	軟着陸	8	16
deposit	デポジット	預かり金	1	0
nanotechnology	ナノテクノロジー	超微細技術	7	0
neglect	ネグレクト	①育児放棄 ②無視	89	①90 ②1141
freelance	フリーランス	自由契約	54	27
rebound	リバウンド	揺り戻し	59	15
reuse	リユース	再使用	48	40
release	リリース	発表	208	1357
one-stop	ワンストップ	一箇所	104	3

〈表3〉音表記語と言い換え語が辞書に収録

原語	音表記語	言い換え語	2016朝日新聞の出現頻度	
			音表記語	言い換え語
accessibility	アクセシビリティ	利用しやすさ	5	3
custom-made	カスタムメイド	特種生産	1	0
thumb turn	サムターン	内鍵つまみ	0	0
donor	ドナー	①臓器提供者 ②資金提供者	75	①75 ②8
trauma	トラウマ	心の傷	134	143
biotechnology	バイオテクノロジー	生命工学	15	1370 (バイオを含む)
biomass	バイオマス	生物由来資源	194	0
hybrid	ハイブリッド	複合型	286	51
heat island	ヒートアイランド	都市高温化	204	0
biotope	ビオトープ	生物生息空間	38	1
lead time	リードタイム	事前所要時間	0	0
returnable	リターナブル	回収再利用	2	0
reduce	リデュース	ごみ発生抑制	7	0
recipient	レシピエント	移植患者	0	4
work-sharing	ワークシェアリング	仕事の分かち合い	6	0

〈表4〉音表記語のみ辞書に収録

の場合は、外来語として定着したと言にくい。
したがって、外来語として定着したと考えられる
語は6語のみである。

4.2.2 韓国の語彙の分析

2017年の辞書に収録されている音表記語は5
語であり、この中で言い換え語も辞書に収録され
ている語は4語である。ここに属している語の出
現頻度は〈表5〉のようである。

〈表5〉の語は全て辞書に収録されているので
出現頻度により定着語が決定される。出現頻度を
比較すると、「コンソーシアム (consortium)」を
除いて言い換え語の頻度が高い。したがって、言
い換え語として定着した語が3語、外来語として
定着した語は1語であると考えられる。

一方、音表記語のみ辞書に収録された語は「イン
フラ (infra)」であり、言い換え語との頻度を
比較すると、音表記語の頻度が高いため、「イン

原語	音表記語	言い換え語	2016新聞の出現頻度	
			音表記語	言い換え語
~pool	풀 (プル)	①~후보군(候補群) ②연합(聯合)	75	①716 ②7363
consortium	컨소시엄 (コンソシオム)	연합체(聯合体)	1127	307
brochure	브로슈어 (プロシュオ)	안내서(案内書)	7	328
cluster	클러스터 (クルロスト)	①다발(タバル) ②소비자군(消費者群) ③연합지구(聯合地区) ④협력지구(協力地区)	974	①1430 ②0 ③2 ④31

〈表5〉音表記語と言い換え語が辞書に収録⁹

原語	音表記語	言い換え語	2016新聞の出現頻度	
			音表記語	言い換え語
infra-structure	인프라 (インプラ)	①기반구조(基盤構造) ②산업기반(産業基盤)	7249	①1 ②319

〈表6〉音表記語のみ辞書に収録

原語	音表記語	言い換え語	2016新聞の出現頻度	
			音表記語	言い換え語
ceo	시이오 (シイオ)	최고경영자 (最高経営者)	60	757
mission	미션 (ミション)	임무(任務)	1454	3519
matador	마타도어 (マタドオ)	흑색선전(黒色宣伝)	4	44
voucher	바우처 (パウチョ)	①상품권(商品券) ②이용권(利用券)	296	①1683 ②1171
needs	니즈 (ニズ)	①수요(需要) ②바람(バラム)	614	①13844 ②11944

〈表7〉言い換え語のみ辞書に収録

フラ (infra)」は外来語として定着したと考えられる。

2017年辞書に収録されている言い換え語は9語であり、この中で、言い換え語のみ辞書に収録されている語は5語である。ここに属する語の出現頻度は〈表7〉のようである。

〈表7〉の頻度を見ると、言い換え語が音表記語より出現頻度が高い。辞書に収録されている語も言い換え語であり、頻度も言い換え語が高いため、〈表7〉に提示されている語は言い換え語に定着されたと考えられる。

4.3. まとめ

辞書の収録有無と新聞の出現頻度を調査した結果、日本語で外来語として定着した語は15語、言い換え語として定着した語は6語である。一方、韓国語で、外来語として定着した語は2語、言い換え語として定着した語は8語である。

5. 日韓の比較

2006年の日本と韓国の調査資料に収録されている語を中心に、辞書の収録有無と新聞の出現頻度を調査した結果、日本語は、外来語として定着する語が多く、韓国語は言い換え語として定着する語が多いことが分かった。また、日本語の場合は、辞書の収録有無から見ると、音表記語も言い換え語も過去の辞書に収録されている語は、続けて辞書に収録され、それに加えて新しい語が辞書に収録されている。一方、韓国語の場合、言い換え語は、日本語と同じパターンを見せているが、音表記語は、過去に辞書に収録されていた語が現在の辞書には収録されていない場合がある。

音表記語と言い換え語の新聞の出現頻度から見ると、日本語の場合は、音表記語と言い換え語が同じ比率で出現することがあり、頻度の差があまりないため、実際にどの語が多く使われているのかを判断することが難しい語がある。一方、韓国語の場合は、出現頻度の差が著しいため、頻度の

比較を日本語より明確に判断することができる。

このように、日本と韓国の両言語において外国語が定着する形態を検討した結果、日本は外来語に、韓国は言い換え語に定着したと考えられる。このことから日本と韓国の定着形態は、まったく反対の傾向を見せていると思われる。

6. 今後の課題

本稿では、辞書の収録有無と新聞の出現頻度の比較を通じて日本と韓国の両言語において外国語がどのように定着したかを考察した。今回の調査は、パイロットとして、言葉の流れに対する仮説を立て研究を行うことにした。しかし、研究を発展させるために、これからは、先行研究と関連文献を参考にして、語の収集、研究方法の基準を定め、語を抽出し、調査期間を増やして語の変化をより綿密に検討する必要があると考える。

注

- 1 日本語の和語に対応する韓国語は固有語であり、漢語に対応するのは漢字語である。また外来語に対応する韓国語は日本と同じ言葉である外来語である。
- 2 『コトバンク』は、朝日新聞社が運営するデジタル辞書サイトである。<https://kotobank.jp/dictionary/>
『コトバンク』は様々な辞書に構成されているため、その中で『大辞林』と『大辞線』に収録されている語だけを辞書の収録語とした。
- 3 日本の辞書の中、時期別に同じ出版社で発刊された辞書がなかったため、時期別に語彙数が多い辞書の中、信頼度が高い辞書を選ぶことにした。参考として『広辞苑第六版』の総語彙数は、約24万語であり、『コトバンク』の総語彙数は、約53万語である。53万語のうち『大辞林』の語彙数は約24万語、『大辞線』は約29万語である。
- 4 『標準国語大辞典』は、韓国の国立国語院が運営するデジタル辞書サイトである。<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp>
- 5 韓国の場合も日本と同じく時期別に同じ出版社で発刊された辞書がなかったため、時期別に語彙数が多い辞書の中、信頼度が高い辞書を選ぶことにした。参考として『訓民正音国語辞典』の総語彙

数は、約12万語であり、『標準国語大辞典』の総語彙数は、約50万語である。

- 6 語の中で、メディカルチェックは原語が外国語ではなかったため、分析対象から除外した。そして言い換え語が複数で提示されていた場合、その中で辞書に収録された語があれば、カウントに入れた。
- 7 韓国語の場合、「deep throat」、「sales point」、「embargo」は、言い換え語がなかったため、分析対象から除外した。また、言い換え語が複数で提示されていた場合、その中で辞書に収録された語があればカウントに入れた。
- 8 日本の対象語である [organizer] は、調査当時の2006年には、「オーガナイザー」に表記されていたが、2008年と2017年の辞書には「オルガナイザー」に表記がされている。また、[cogeneration] も、2006年には「コージェネレーション」に表記されていたが、2008年と2017年の辞書には「コージェネレーション」に表記されている。このことから [organizer] と [cogeneration] は、音表記語が辞書に収録されているが、表記が変わったため、音表記語の辞書の収録有無から除外した。
- 9 音表記語の括弧の中の表記は韓国語の発音をカタカナで表記したものであり、言い換え語の括弧の中の表記は、韓国語を日本語で翻訳した語である。言い換え語が漢語で提示された場合は韓国語の漢字を、固有語で提示された場合は韓国語の音をカタカナで表記した。〈表6〉、〈表7〉の括弧の表記も同じである。
新聞検索は、bigkindsというサイトを利用する(<https://www.bigkinds.or.kr>)。ここで検索した新聞は8社の中央紙である。
- 10 括弧の表記は注9を参考。